

教科	・児童の課題○重点目標	具体的な授業改善策
国語	- 漢字の読み書きや語句の意味など、語彙に関する知識がなかなか定着していない児童がいる。 - 文章の構成を考えたり、表現を工夫したりすること、実際に作文することに苦手意識をもっている児童がいる。 ○漢字や様々な語彙を使って文章を書けるようにしていく。	- 定期的に漢字小テストを行ったり、授業の中で語彙の確認をしたりすることで、言葉に対する興味関心を高める。 - 様々な表現に触れさせたり、子供たち同士で文章を読み合ったりする時間を確保していく。また、短作文などを小まめに書くようにしていく。
算数	- 文章題の意図をつかみ、立式することに苦手意識をもっている児童が多い。 - 長さや角度など、用具を使った計測や、用具を使った作図の際に正確に測ったり描いたりすることができない児童がいる。 ○基本的な四則計算や算数用具を使った計測などがきちんとできること、文章題から立式できることを重点目標とする。	- 文章問題では、要点に下線を入れたり、印をつけたりする作業を繰り返し行うことで、文章からの要点の読み取りの仕方を定着させていく。 - 基本的な技能の定着を図るため、習熟の時間を十分確保するとともに、丁寧に取り組めるよう継続的に声をかける。
理科	- 課題を解決するための実験を考えたり、見通しをもって学習を進めたりする経験が不十分である。 - 実験の結果や観察したことから、筋道立てて考え、考察していくことを苦手としている児童が多い。 ○課題を解決するための見通しをもったり、実験の結果から筋道立てて考えたりすることができるようにする。	- 課題解決型学習の基本を確認しながら、自分たちで実験計画、学習計画を立てる時間を単元の最初に設ける。 - ロイロノートを使って、実験や観察の結果をまとめ、全体で考えを共有し、自分の力で考察を導き出す時間を設ける。 - 単元のまとめのときには、小テストや、クイズの時間を設け、知識の定着の時間を設ける。
社会	- 社会の資料を読み取ったり、それらのことを関連付けて考え表現したりすることを苦手としている児童がいる。 - 資料をもとに調べたことをまとめたり、見通しをもって学習を進めたりする経験が不十分である。 ○見通しをもって学習を進めたり、資料から読み取ってまとめたりすることができるようにする。	- 自力解決の時間を十分確保した上で、友達同士の交流を積極的に行う。様々な考えに触れる中で、自分なりに表現できるようにしていく。 - まとめかたの基本を提示したり、ICT 機器を活用して紹介をしたりすることで、自分なりの型が身に付けられるようにする。
音楽	歌うことを楽しみ、伸びやかな声で歌うことができる一方、高い音域も地声で出してしまう児童もいる。 ○美しい歌声を響かせることに興味関心を持ち、頭声的発声を習得することを重点目標とする。	- 高い音域の曲を積極的に歌唱し、裏声を使うことに慣れる。 - 範唱を聴き、範唱の歌声を真似する活動を取り入れる。 - 発声についての理解を深め、楽曲の音高によって地声と裏声を使い分けるように指導する。

図工	・友達と関わりながら、発想や新しいアイデアを広げ、意欲的に活動している児童が多い。一方で、思い通りにいかないと手が止まってしまう児童がいる。 ○造形活動に取り組むときの感覚や行為を通して、自分のイメージをもちながら表現を楽しむ力を育てる。	・導入で映像資料を見せながら様々な作品に触れる機会を設定し、豊かな発想につなげていく。 ・ICT を効果的に活用し、技法や材料の生かし方などをいつでも調べたり、友達の活動の様子を見たりする時間を十分に確保する。
体育	・意欲的に取り組む児童が多い一方で、極端な苦手意識をもっている児童がいる。 ・日頃の運動習慣や運動の経験が乏しい児童がいる。 ・自己の動きを客観的に分析したり、それらをもとに考えて練習に取り組んだりする経験が乏しい。 ○ねらいをもって毎時間の授業に臨めるようにするとともに、一人一人に応じた指導や声かけを心掛け、主体的に取り組む力を付けられるようにする。	・体育が楽しいと思えるような授業作り、雰囲気作りに徹するとともに、称賛の声を惜しみなくかける。 ・休み時間を利用して様々な運動に親しむ習慣を付ける。 ・授業の振り返りを習慣付けるとともに、ねらいをもって運動に取り組む時間を確保する。

※ なお、各教科において、端末は対話的な学びや記録の蓄積等に常時生かすようにする。